

ネットワーク型基幹研究プロジェクト 地域研究推進事業
「グローバル地域研究推進事業」令和 4 年度 年次計画

中心研究 テーマ	(和文)	東ユーラシア研究
	(英文)	East Eurasian Studies
機関名		東北大学東北アジア研究センター
代表者氏名・役職		高倉浩樹 教授

220629 版

1. 令和 4 年度の研究概要

本プロジェクトでは、全体として「東ユーラシアの文化衝突とウェルビーイング」の解明を目標として、4つの拠点による4つのテーマ「少子高齢化と葛藤」「宗教とサブカルチャー」「マイノリティの権利とメディア」「越境とジェンダー」に関わる問題を軸として、社会科学的視点を踏まえ、総合的かつ包括的な研究を進める。今年度は研究拠点の組織作りを行い、6年間の研究の方向性とテーマを確定する。また HP を作成し、情報整理と発信の体制を構築する。さらに拠点毎にセミナーやシンポジウムを実施し、拠点の研究活動の活性化と関連する国内外の研究者の連携体制の構築のあり方について検討する。また次世代研究者の支援に向けた体制についての検討を行う。

（東北大学東北アジア研究センター拠点（中心拠点））

本プロジェクトの研究領域は、(1) マイノリティの権利とアイデンティティ、(2) ソーシャルメディアと社会運動、(3) 災害・紛争によるマイノリティの生成である。従来の地域研究のアプローチを基盤としつつも、東ユーラシアを越えた地域の相互作用について念頭に置きながら、大国の主流派から排除されたマイノリティが作り出すグローバリズムを明らかにする。またこうした動向のなかで果たす映像をふくめた様々なメディアの役割を明らかにする。令和 4 年度は立ち上げとして、研究分担者間での打ち合わせによるブレーンストーミングを積み重ね、研究の方向性とテーマを確定する。また国際ネットワーク網の支援構築を開始する。

（神戸大学国際文化学研究推進センター拠点）

本プロジェクトでは、少子高齢化、移住労働、トランスポーターなどによって起きる葛藤や社会変化について、具体的なトピックを設定し、多様な角度から問題群を分析する。東ユーラシアを越えた移住労働や国際結婚、あるいは労働力、市場確保のための経済政策などによる経済進出や生産部門の設置による人の移動など、地域を超えた諸問題と地域の相互作用や地域における比較などを行う。令和 4 年度は立ち上げとして、研究分担者を中心としたアプローチの検討、具体的トピックの選定と研究スケジュールについて、分担者間での打ち合わせによるブレーンストーミング、研究会を積み重ねる。いわば、令和 4 年度は、研究の方向性とテーマを設定する準備年度と位置づける。また、平行し、研究分担者および研究協力者、海外の協力研究者を必要に応じて補充し、研究実施体制を整備する。

(国立民族学博物館東ユーラシア地域研究拠点)

本プロジェクトでは、宗教やサブカルチャーがグローバルな関係性の中でどのようにして人々の希望を作り出している点に焦点を当てる。とりわけ旧社会主義圏においては、制度宗教や旧西側由来のニューエイジ思想、サブカルチャーといった「グローバルな文化」との接続が90年代以降あり、中国においても改革開放以降に外来の宗教や文化と接続した点で共通している。こうした背景のもとに当該地域の人々が、新たに生み出された文化によっていかなる幸福感と文化衝突が生じているのかを明らかにする。令和4年度は立ち上げとして、研究分担者間での打ち合わせによるブレーンストーミングを行い、研究の方向性とテーマを確定する。また研究協力者候補による研究会を随時組織し、成果発信にむけた体制作りを行う。秋ごろをめどに拠点のホームページを立ち上げる。このほか、海外調査を実施すると同時に、国際ネットワーク網の支援構築を開始する。

(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター拠点)

本プロジェクトでは、東ユーラシア地域を中心に、越境とジェンダーに関わる問題を軸として、ボーダースタディーズなどの理論的枠組を踏まえ、総合的かつ包括的な研究を進める。国家レベルに問題群を集約することではなく、マクロなエリアとミクロなリージョンの位相差と多面性を念頭におき、様々なスケールにおいて、問題群を分析する。また東ユーラシア地域を超えた諸問題と地域の相互作用や地域における比較などの視座も重視し、当該問題群に関して、人文社会系の総合知といった観点から、学際的なアプローチを持ちいるとともに、実社会との共創に基づく、人びとの生活に対する貢献も射程にとらえる。令和4年度は立ち上げとして、研究分担者の公募を実施し、分担者間での打ち合わせによるブレーンストーミングを積み重ね、研究の方向性とテーマを確定する。また研究協力者候補による研究会を随時組織し、成果発信にむけた体制作りを行う。

2. 令和4年度の実施計画（具体的に箇条書きで記述してください）

(東北大学東北アジア研究センター拠点（中心拠点）)

1. 東ユーラシア研究プロジェクト全体及び拠点のHPの構築
2. 全体集会の実施（2月予定）
3. メンバー間のブレーンストーミング
4. 年4回程度の研究会
5. 若手研究者支援（RA、旅費支援、校閲）及び7th International Symposium on Arctic Research（2023年3月6-10日、国立極地研究所）において分科会を組織し、海外の若手研究者を招へい
6. 海外調査の実施

(神戸大学国際文化学研究推進センター)

1. メンバー（研究分担者）間のブレーンストーミング
2. 研究分担者・研究協力者追加
3. 拠点のHPの構築
4. 年数回の研究会
5. 成果報告「人の移動とアジア共同体（仮題）」（岡田浩樹編）の制作、英文成果報告書の準備
6. ポストドクター、博士課程のジュニアグループの組織、ワークショップの実施

7. 海外調査

(国立民族学博物館東ユーラシア地域研究拠点)

1. メンバー間のブレーンストーミング
2. 拠点のHPの構築
3. 年に2-3回程度の研究会
4. 海外調査

(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター拠点)

1. メンバー間のブレーンストーミング
2. 研究分担者公募 (6月半ばをめどに確定)
3. 拠点のHPの構築
4. 年に4回程度の研究会
5. 出版計画『日本の境界(仮題)』(北大出版会)の推進
6. 海外調査